

事業所における 自己評価結果（公表）

公表：令和 5 年 12 月 1 日

事業所名 コベルプラス 白楽教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0	粗大運動時、お怪我がなく十分に活動が出来るよう配慮している。	
	②	職員の配置数は適切である	5	0		
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	0	施設の中央に大きな柱があり、死角になりやすい。 事故につながる可能性があるため、今後も危険のないように配慮していきたい。 また、コーナーガードを使用している。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5	0	朝は玄関掃除、夕方は教室全体の清掃に当たっている。 また、除湿・加湿を必要に応じて行っている。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5	0	日々のミーティングやカンファレンスで周知している。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0	評価表により、保護者様のご意向を把握し、職員全体で共有し、業務改善につなげている。	

	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0		白楽教室の公式 LINE で周知すると共に、通所時にお声掛けをしていく。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	5		(第三者評価実施なし)
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0	定期的に社内・社外研修に参加している。 研修を通して、専門性を高めよりよい療育の実施に繋がっていきたい。 また、研修を年間計画として職員に周知し、教室内研修も実施している。	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5	0	お子様と保護者様のニーズや課題を踏まえ作成された支援計画内容に、コペルの教材を用いてどのようなアプローチができるのかを職員同士で相談し、実践している。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0	標準化されたアセスメントツールがある。 発達段階シートを使い、成長の確認を行っている。	

	<p>⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている</p>	5	0		
--	---	---	---	--	--

	<p>⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われている</p>	5	0	<p>療育前に支援計画を確認し、計画に沿った療育を職員一同心がけている。</p>	
	<p>⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている</p>	5	0	<p>個別支援計画は、カンファレンスにより、立案している。</p>	
	<p>⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している</p>	5	0	<p>沢山の教材や補強プリントを使用している。 また、同じ教材でも毎週の取り組み方に段階や変化がある。 また、レッスンに入る指導員も偏らないように工夫している。</p>	
	<p>⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している</p>	5	0	<p>お子様と保護者様のニーズや課題を傾聴し、必要に応じて集団療育のお声掛けをしている。</p>	
	<p>⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している</p>	5	0	<p>周知事項については、毎朝の朝礼と夕方の振り替えりの際に共有を行っている。</p>	

	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	0	その日の状況について、共有を怠らないようにしている。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	フィードバックの時間でお伝えできなかった内容も含め、適切に、具体的に記録を残せるように心がける。	
	⑳	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	0		
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	0	5		今後そのような機会があれば管理者が出席予定です。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	0		
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	5	医療的ケアを必要としている利用者がいない。	
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	5	医療的ケアを必要としている利用者がいない。	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	0	求めに応じて柔軟に対応できるよう、準備を継続していきます。	
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	0	ご希望の方に情報共有シートを作成している。	
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	0		
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	5		

	②⑨	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	0		
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	来所時のお出迎えの時間や、レッスン中の時間など、積極的に保護者様にお声掛けをし、お子様の最近の様子などを把握していくよう努めている。 療育後にフィードバックを行い、お子様の状況について共通理解を深めている。	
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5	0	月に1回ペアトレ(ペアレント・トレーニング)を実施している。今後も継続していく。皆様にご参加頂けるように、丁寧な詳細の説明と、早めのご案内を心がけていく。	
保護者への説明責任等	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0		
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5	0		
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	ご相談があったら迅速に対応させて頂いている。 また、個別での相談支援を受けられ	

					ることをフィードバックや教室の公式LINEを通じて周知している。	
③5	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	5		ペアレントトレーニングを実施している。 今後保護者会等の保護者様同士の交流の機会を検討していきたい。	
③6	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0			
③7	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0		様々なSNSを活用している。 ブログやLINE、インスタグラムなどを通して、教室の様子を発信している。	
③8	個人情報の取扱いに十分注意している	5	0		利用者様の名前の記載があるデータや書類を取り扱う際には、鍵付きの書庫に入れたり伏字にしたりすることを徹底している。 また、処分する際はシュレッターを徹底している。	
③9	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0		個々に応じて、わかりやすい指示の出し方を常に模索している。 簡潔な指示を意識し、必要に応じ	

					てイラストや見通し表なども用いている。	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	5		
非常時等の対応	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	0	全マニュアルに職員が目を通して いる。 また、避難訓練では、エレベーターが止まったことを想定し、B1F から外に避難する訓練を実施した。	
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	年に2回避難訓練を実施している。	
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5	0	保護者様からの聞き取りがあった場合は、職員同士で情報共有を徹底している。	
	④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0	5	療育で使用する小麦粉粘土を、米粉粘土に切り替えて使用している。	
	④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0	全員で情報共有をし、改善対策を行っている。 他教室で起こったヒヤリハット事例集にも目を通し、自教室でも同じことが起こらないように努めている。	
	④⑯	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0	社内、社外研修に参加している。	

				また、教室内で虐待防止委員会を設け、虐待について自身の考えを持つ機会を設けている。	
④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5	0	契約時に説明し、ご理解を頂いている。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。